

本部会は、1997年に田中哮義先生が京都大学防災研究所教授として着任された際に、神戸大学室崎教授から引き継がれ、関東圏と同様に災害(主に火災)研究者の研究交流の場を作ることを目的として活動を行ってきました。

部会の傘下として、加圧防煙システム研究会・都市防災研究会など、それぞれの時代で取り組むべき重点課題について議論する研究会も立ち上がったこともあり、活動が活発な時期は月に2回のペース、現在でも概ね月0.5~1回のペースで精力的に活動を行ってきました。

具体的な調査・研究活動としては、建築防災に係る法律改正内容の早期把握、それに対する提案などの対応や、都市防災に係る最先端研究情報の共有、建築防災計画における新しい煙制御技術の利用普及、などを行ってきました。

これらの調査・研究活動の主な成果は、出版物やセミナーなどによって公表してきました。

その成果は、以下のようにまとめられます。

(1) 第1期:加圧煙制御の計算法の提案(～1999年頃)

実務の防災・設備設計者とともに、報告書「加圧煙制御システムの給気量の算定方法」をまとめた。

本報告書はその後の加圧煙制御設計の考え方の参考として度々用いられている。

(2) 第2期:火災性状の簡易予測法の提案(～2001年頃)

火災性状予測をプログラムに頼るのではなく電卓やエクセルで算定できる簡易法をまとめた。

設計者が実務で扱える画期的な本として注目され、今般本部にて内容拡充のうえ「火災性状予測計算ハンドブック」として2018年3月に出版された。

(3) 第3期:排煙設備技術指針の改定版(～2011年頃)

1987年版「排煙設備技術指針」に法令改正や技術の進展を盛り込み報告書をまとめた。

その後本書も本部に引き継がれて内容拡充のうえ新指針として2014年に販売された。

(4) 第4期:防災計画に関する指針(～2018年頃)

新たなメンバーも加わり第4期を迎え、防災計画に関する解説書を作成した。これを発展させて、建築学会編「建築火災安全設計の考え方と基礎知識」を本部から2019年3月に刊行予定である。